

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者が増加しているなかであっても、商店街への来街者が日を追うごとに増えている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・7月の売上は前年比134%、前々年比19.4%である。ワクチン接種への期待と夏休み、東京オリンピックが重なったことで、連休中の人出が増えており、その分だけ売上が増えた。
	○	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・月末に東京オリンピック開催に伴う連休が入ったことなどから、来客数及び買上客数が増加傾向にある。また、気温の上昇に伴って夏物衣料を中心に動きが活発化しており、こうした状況はしばらくの間続くと思われる。
	○	百貨店（役員）	お客様の様子	・東京オリンピックの開催に伴い客の動きが明らかに消費に傾いている。ただ、こうした動きが一時的なものかどうか分からない。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除、ワクチン接種の進展、気温の上昇など、様々な要素が重なり、7月は売上がやや持ち直した。来客数も新型コロナウイルス発生以前の2019年と同程度の水準まで回復している。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・4連休は観光客の入込が多くみられた。また、地域の夏祭りも一部開催されるようになったことで、街に活気が戻ってきた。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・天候がとても良いことから、景気はやや良くなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・以前と比べて漁業の活気が出てきている。好天の影響が大きいのかもしれないが、早朝と夕方の来客数が増加しており、産業が活発になってきていることがうかがえる。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、景気はやや回復している。ただ、新型コロナウイルスの感染者数が再び増えてきていることから、先行きがどうなるかは分からない。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月は気温が高いことから、来客数が増加している。8月以降はどうなるか分からないが、7月については景気が良い。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・夏物家電の売行きが前年よりも良い。テレビや関連商材の販売量も微増している。
	○	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用期間もあったが、コロナ禍が2年目に入ったこともあり、客足が前年より10%程度増加している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除により、来客数が伸びつつある。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ビジネス目的、観光目的、ゴルフ目的などでWebを経由した予約が入り始めている。イベントの開催もプラス要因となっている。近隣の観光施設も営業を再開している。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・北海道の緊急事態宣言が解除されたことにより、ビジネス、観光需要が戻りつつある。しかし、東京都などの緊急事態宣言が継続していることから、大幅な回復には至らない状況が継続している。東京オリンピックも無観客開催や事前合宿の中止などにより、盛り上がりには欠けており、需要回復にはつながっていない。
	○	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ワクチン接種が進んでいることで購買意欲に変化が出てきている。
○	タクシー運転手	単価の動き	・新型コロナウイルスの感染状況について、当地域では小康状態が続いている。緊急事態宣言の解除もあって、経済活動は活発になってきている。	
○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの対策が解除されたことで、ワクチン接種済みの客や感染対策を講じた客の利用が増加してきている。	

○	美容室（経営者）	来客数の動き	・シルバー世代のワクチン接種が進んでいる影響で、以前よりも客の動きが活性化してきている。来店周期も以前と同じような状況になっており、その分だけ売上が増加している。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・首都圏において緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用がみられるものの、前年と比べて輸送量が増加している。
○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減ってこないものの、東京オリンピックの開会と猛暑の影響で客のムードが少しずつ上向いてきている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地では7月中に高齢者のワクチン接種がほぼ終了する予定となっているが、平日の区域内駐車場やバス停の状況を確認しても、地元住民による来街の増加傾向がみられない。高校生を中心とする学生の来街は幾分戻ってきているが、各業種の売上アップにはつながっていない。明るい材料としては、道内外からの観光客、ビジネス客とみられる車両が増加していることが挙げられるが、当地に滞在や宿泊をしているかどうかを見極められないため、売上アップにつながっているかが判断できない。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、週末や連休になると、旅行客などの空港利用客の姿がみられるようになってきているが、団体客が相変わらず少ない。2～3人の家族や親しい友人とみられる小グループ客が目立つ。
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・感染拡大の第4～5波を迎えるなか、このところの売上は多少の増減はあるものの、コロナ禍1年目の前年とほとんど変化のない状況で推移している。
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・6月の緊急事態宣言の解除後、しばらくは来客数が減少傾向にあったが、7月に入り好天に恵まれる日が続いていることから、来客数が回復傾向に転じている。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の投入によって受注量が増加することを期待したが、全体的には期待したほど伸びていない。新型コロナウイルスの影響がいまだに大きいことに加えて、半導体不足の影響もみられることから、需給バランスが崩れており、売上に結び付かない状況にある。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・本来であれば、北海道は夏枯れの時期となっているはずだが、新車種が好評ということもあって、2～3か月前と比べて客の来場が増えており、売行きも伸びている。全体的な販売量は前年を上回っており、前々年に近い水準まで回復している。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・販売量が上向きつつあることから、景気はやや良くなっている。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は前々年の3割とやや悪い。夜は一向に客が入らないが、まん延防止等重点措置が解除されたことでランチは低価格帯のメニューを中心に回復傾向にある。一方、50代以上の客はまだ回復してこない。
□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置などが繰り返し適用されていることから、観光需要喚起策も実施できない状況にある。観光、飲食、エンターテインメント産業に対する経済対策が何1つなく、人流抑制策などにより需要が激減しているため、打つ手が無い状況にある。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されても来客数は変わっておらず、1日1けたにとどまっている。新規予約があっても、新型コロナウイルスの感染者数が増えると取消しになることが多い。道内外関係なく、旅行へ出掛けることに対する客の警戒心が弱まらない状況にある。

□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・東京オリンピック・パラリンピックが開催されたが、ワクチン接種が進まない現状から、新型コロナウイルスの感染に不安を感じている客が多い。ワクチン接種率が上がってこない限り、旅行需要が上向くことはない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用されていた7月11日までの期間は人の移動が制限されていたこともあり、タクシーの利用も減った。12日に解除された後も大きな変化はなく、新型コロナウイルス発生以前の前々年との比較では40%の売上減少であった。前年との比較でも15%の売上減少であり、相当厳しい状況が続いている。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・1年で一番の稼ぎ時を迎えているが、大変厳しい状況にある。前年からのコロナ禍のなかで、どういう状況がベストなのかも分からない。ここに来て、再びまん延防止等重点措置が適用されることになれば、道内各地にも影響が生じることになる。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除後、やや人の動きが出てきているものの、前々年と比べると30%の落ち込みとなっている。東京オリンピックが開催されたが、新型コロナウイルスの感染者が増えてきていることがマイナスとなっている。65歳未満のワクチン接種の見通しが立っていないこともマイナスである。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・たばこを紙巻きのものから葉巻きに変える客がみられるなど、客がより単価の低い商材を求める傾向がみられる。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・7月は果物の収穫期までの端境期に当たることから、景気はやや悪くなっている。
▲	一般小売店 〔酒〕（経営	販売量の動き	・4～5月と比べると売上は回復傾向にあるが、3月並みの水準までには回復していない。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・7月中旬までは来客数が増えてきていたが、下旬に入り、新型コロナウイルスの感染者が全国的に増加傾向に転じていること、東京オリンピックの開催が始まったことなどから、来客数が減ってきている。
▲	スーパー（従業員）	お客様の様子	・前年はコロナ禍の影響で客の来店頻度が低下し、来客数が大きく減少したものの、客単価の上昇により、売上を確保できた。今年は来客数が前年並みにとどまっている一方で、客単価が低下しており、売上確保が困難な状況となっている。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスがいまだに終息に至らないことから、販売も滞っている状況にある。
▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・客の動向から、家庭での静穏な生活に慣れてきていることがうかがえる。ワクチン接種の遅れもあり、客が余計な行動をしないようになっており、店舗販売を行うには厳しい状況にある。
▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・観光シーズンに入ったこともあり、来客数が増えてきている。東京オリンピック開催に伴う連休の際は、多くの観光客がみられ、売上も良かった。ただ、今後、段々と新型コロナウイルスの感染者が増えていくとみられるため、再び景気が悪くなっていくのではないかと懸念している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・東京オリンピック開催によって北海道でも競技が行われるため、人の往来が増えることを期待していたが、東京都における緊急事態宣言の発出、札幌市における新型コロナウイルスの感染拡大などによって、競技の無観客開催が決定したことから、観光客の入込が限定的になり、週末以外は思っていたほどの集客がみられない状況が続いている。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が急速にぶり返しており、第5波が始まったとみられる。またかという思いが全国に広がっており、サービス業への逆風がより強くなっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・一時は夜間の人出もみられるようになっていたが、新型コロナウイルスの感染再拡大によって、以前の状況に逆戻りしている。

	▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・大型店舗で実施している通信端末の出張販売について、都市圏でも徐々に来客数が増えてきているが、商材や価格での他社との競合が激しくなっている。また、客が販売ブースに慣れてきており、ブースへの集客や客の反応が半年前と比べると悪くなっている。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・様々な面で客の消費行動が縮小していることがうかがえる。当店の場合、店販品の買い控え、来店頻度の低下がみられており、そのことが気掛かりである。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・例年であれば繁忙期に当たる時期だが、東京オリンピック後の感染拡大を心配している客が多いことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者が再拡大しているため、積極的な営業活動をできない状況にあり、景気はやや悪くなっている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、飲食店の予約が少しずつ回復に向かっていたが、感染者が再び増加傾向となったことで減少に転じている。また、今年の北海道は猛暑であることから、外出を控えている客も多いとみられ、中心市街地は閑散としている。東京オリンピックの開催が経済回復に寄与すると期待していたが、無観客となったことで崩壊した。北海道の場合、観光なくして経済の復活は見込めないため、早期の対策を期待したい。
	×	百貨店（営業販促担当）	来客数の動き	・3か月前は来客数の回復傾向がみられたが、5～6月にかけての緊急事態宣言の発出以降、来客数が前年を下回っており、いまだに前年を上回ってこない状況にある。
	×	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・7月前半は流れが戻ってきたようにみられたが、東京オリンピック開催前後から全てが売れない状況となっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・北海道の緊急事態宣言は7月11日で解除されたため、12日から営業を再開しているが、客足の回復には程遠い状況にある。以前の2割の来客があれば良い方かもしれない。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・7月に入り、観光客とみられる北海道外からの車両やレンタカーが増えてきており、宿泊や一部飲食店への客入りは良くなっている。ただし、タクシー事業には何も恩恵が生じていないのが現実である。地元住民の消費行動は相変わらず低迷していることから、当分は景気回復が望めない。
企業動向関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・7月の販売量は前年比マイナス39%だったが、3か月前の4月の販売量は前年比マイナス48%だったことから、景気はやや良くなっている。
	○	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・通信・IT企業の状況を見ると、新型コロナウイルスの終息を見据えた新たな社会基盤や事業の枠組みなどに関する案件が増えてきており、総じて景況感が上向いている。
	○	その他サービス業【建設機械レンタル】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年比をみると、伸び率がやや縮小傾向にあるものの、依然として5%近い伸びを示している。こうした傾向はしばらく続くとみられる。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比べると受注量がやや増えているものの、コロナ禍前の水準には程遠い状況にある。
	□	建設業（従業員）	取引先の様子	・受注量が減少傾向にあることから、受注金額を下げる傾向が強まっている。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・厳しい暑さながらも好天が続いており、新型コロナウイルスの直接的な影響も出ていないことから、順調に工事が進んでいる。出来高が積み上がっている状況に変わりはない。

	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州での生乳生産が順調な上、全体での需要に伸びがみられないことから、北海道からの送り出しが大きく減っている。古紙も在庫が積み上がってきていることで輸送量が減少している。飲料関連は好調だが、全体としては例年並みの輸送量となっている。
	□	輸送業（支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染者について、減少と増加の波が繰り返されていることから、いまだに正常な経済活動に戻っていない。取引先の景気も良くなっているとはいえない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・コロナ慣れによって人の動きが増えているものの、サービス消費については依然として低水準で推移している。一方、マインドの改善により、民間投資は持ち直しの動きがみられる。業種、業態によって、足元の業況のばらつきが大きい状況に変化はなく、道内景気は3か月前と変わらない状況にある。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、依然として自粛が要請されるなど、人との接触が制限される状況にある。不動産取引の営業はリモートでは難しく、成約に進むまでに時間が掛かるようになってきていることから、景気回復には相当の時間が必要な状況にある。
	□	司法書士	取引先の様子	・不動産業や建築業の取引先において、新型コロナウイルスの影響が良い面と悪い面の両方に現れている。悪い面としては、人と人の接触を回避せざるを得ないことから、営業活動に制限が生じていること、公務員を中心にテレワークが行われていることで手続きに時間が掛かってしまうことなどが挙げられる。一方、良い面としては、行楽などの遊興費が抑えられている分、家の修繕や小型の新築住宅の購入などが徐々に増えてきていることなどが挙げられる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事、整備新幹線延伸工事、再生可能エネルギー関連工事、民間プロジェクト工事などが切れることなく動いている。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・取引先の設備投資意欲は変わらないが、木材や半導体などの不足に伴って納期遅れが生じることなどが懸念される。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・数か月前の売上予測を上回る実績が続いている。コロナ禍の影響でベース商材の動きは鈍っているが、物件の受注が思いの外順調であり、ベース商材の落ち込みをカバーしている。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大や東京オリンピックの異例な開催状況を受けて、これまで不透明だった市況が停滞気味になってきている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	○	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地では観測史上初の猛暑が続いていることから、エアコン、飲物、アイスなど、暑さ対策関連の商材を取り扱っている業界が活況である。また、4連休の際は、新型コロナウイルスの発生以前ほどではないが、道内のみならず道外からの観光客も多数みられた。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今年に入ってから求人数が増加傾向にあり、特に営業、IT系の求人が目立つ。一方、飲食店、ホテル、アパレルなどからの求人はほとんどみられない状況にあり、コロナ禍の影響を受けていることが分かる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・畑作、畜産などの基幹産業に支えられている面もあるが、地域中核都市として第三次産業が大きな雇用の受け皿となっているため、コロナ禍の影響が大きく、全体としては踊り場で足踏み状態にある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設や運輸、介護など、人手不足の業界における採用意欲は高いものの、新型コロナウイルスの影響を受けている飲食、小売、宿泊は先が見通せないため、混乱している。ただ、悪い状態が長く続いているため、底を打ったようにもみえる。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地では、相変わらず飲食店に対する営業時間短縮などが要請されている。一部では集客につなげている飲食店もあるようだが、残念ながら目立って景気が回復しているような話は聞こえてこない。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・最近の情勢として、経営環境が一層悪くなっているという話は余り聞かないが、改善していないという話をよく聞く。雇用調整助成金を申請する事業所数もまだまだ減っていないことから、当分景気は変わらないとみている。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における6月の有効求人倍率は0.84倍であり、3か月前との比較では0.03ポイント下回っている。
□	職業安定所（職員）	それ以外	・6月の新規求人数が前年を上回ったことで、有効求人倍率は1.33倍となったが、大手企業の事業撤退に伴う工場閉鎖が予定されているため、地域経済への影響が懸念される。
□	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・相変わらず業種によるばらつきがみられる。新卒の採用活動を6月で終了したとみられた企業が再度動き出したりしている一方で、業績立て直しの出口がみえない業種は学生たちも敬遠しており、上向きになる要素が見当たらない。全体的にみると、企業側の採用意欲も学生の内定獲得意欲もいまだに低調なままである。
▲	*	*	*
×	—	—	—